第４章
歴史文化遺産の把握調査

原鶴を中心とした筑後川鵜飼

第１節　既存調査の内容

1 歴史文化遺産に関する調査研究

（１）これまでの調査

①江戸時代～明治時代

江戸時代には、『朝倉紀聞』（古賀高重）や『筑前国続風土記』（貝原益軒）、『筑前国続風土記附録』（加藤一純・鷹取周成）、『筑前国続風土記拾遺』（青柳種信）、『筑前名所図会』（奥村玉蘭）などの地誌類がまとめられています。地域の歴史や文化、神社仏閣、伝承などについて書かれ、本市域にも関連した詳細な記載があり、今では埋もれてしまった歴史や伝承を知ることができる貴重な資料となっています。『望春随筆』は秋月藩の平田胤富が天保期に記した随筆ですが、秋月藩における重要な地誌といえます。幕末には、秋月藩士であった大倉種周により中世山城の縄張り図である『古戦古城之図』がまとめられ、中世山城研究の基礎となっています。明治時代には『福岡県地理全誌』が作成され、江戸時代の地誌類を踏襲しつつも、物産や橋、溜池の数など、より詳細な記録として残っています。

②大正時代～昭和 40 年代後半（行政への文化財担当職員配置前）

大正２（1913）年に、大倉種教が『小図小言』に考古資料を紹介しています。そこには栗山遺跡や平塚大願寺遺跡（平塚大願寺塚）など様々な資料が紹介されました。大正時代に中山平次郎や京都帝国大学の梅原末治、福岡県嘱託の島田寅次郎らによって栗山遺跡の調査や報告が行われたのが、考古学的調査の始まりです。大正から昭和の初めには福岡県による『史蹟名勝天然紀念物調査報告書』がつくられ、朝倉橘広庭宮跡の探索や志波宝満宮古墳の調査報告などがされています。その後、行政による調査が本格的に開始する前の昭和30～40年代には朝倉高等学校史学部を中心とした埋蔵文化財の調査がなされました。

昭和26（1951）年に田代政栄によって編纂された『秋月史考』は、秋月における歴史・地誌・風俗をまとめた貴重な資料です。

昭和33（1958）年には三奈木村の加藤新吉村長の遺稿をまとめた『三奈木村の生いたち』が刊行、昭和38（1963）年には古賀益城によって『あさくら物語』が編纂されます。昭和44（1969）年には朝倉高校史学部により『埋もれていた朝倉文化』としてこれまでの史学部の調査成果がまとめられます。それぞれ行政による資料編纂以前の、貴重な調査成果といえます。

③昭和 40 年代後半（行政による調査の開始期）

昭和40年代後半から、市・町が朝倉高等学校史学部や福岡教育大学、福岡県に委託する埋蔵文化財調査が始められ、昭和52（1977）年には甘木市による神蔵古墳の調査がされます。また九州大学による当地に関係する古文書の調査も本格化し、昭和46（1971）年には『九州文化史研究所所蔵古文書目録九』が刊行され、秋月黒田家文書が整理されました。

同じく昭和40年代に、江川・寺内のダム建設に伴って、江川や矢野竹の民俗資料の調査が甘木市によって行われ、『民俗資料　江川』、『民俗資料　矢ノ竹』として調査報告書が刊行されま

した。

昭和50年代には『杷木町史』や『甘木市史』、『朝倉町史』の編纂に伴って、古文書などの歴史資料の調査が進められます。

④昭和 50 年代後半（行政への文化財担当職員配置の本格化）～現在

昭和54（1979）年から平成２（1990）年にかけて、大分自動車道の建設に先立ち、福岡県によって市内を横断する大規模な発掘調査がされました。その成果は、旧石器時代から江戸時代にかけての64遺跡の56巻に及ぶ発掘調査報告書（『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告　１～56』）としてまとめられ、市域の歴史解明に大きな役割を果たしています。

昭和54（1979）年には「秋月城下町伝統的建造物群保存対策調査」が実施されます。秋月城下町の建物や景観のみならず、美術工芸品や石造物、伝統産業などの総合調査が行われ、『秋月　秋月城下町伝統的建造物群保存対策調査計画報告書』としてまとめられるとともに、平成９（1997）年の秋月伝統的建造物群保存地区の決定の基礎となっています。

古文書の関係では九州大学によって、昭和57（1982）年に『秋月郷土館蔵書分類目録』（秋月郷土館所蔵史料）、平成６（1994）年に『九州文化史研究所所蔵古文書目録十八』（三奈木黒田家文書）の調査がなされました。

その後、市・町に文化財担当職員が拡充されるにあたって、行政主体の歴史文化遺産の調査が進み、本市主体の調査だけでも250を超える調査を実施しています（『甘木市文化財調査報告1～69』『朝倉町文化財調査報告書１～11』『杷木町文化財調査報告書１～７』『朝倉市文化財調査報告書1～49』）。発掘調査の結果、その重要性が判明し、平塚川添遺跡や堤当正寺古墳、小田茶臼塚古墳や杷木神籠石、長安寺跡などが国や県・市の指定を受け、保存・活用が進められています。

また、平成18（2006）年には、市内三箇所目のダムである小石原川ダムの建設事業が開始されます。それに伴い、江川の東部三集落が新たに水没予定地区となったことから、朝倉市教育委員会が福岡県･福岡大学･九州大学などの関係機関の協力を得て、平成21（2009）年度から23（2011）年度までの３か年で水没予定地区に関する歴史・民俗資料の調査を行いました（『小石原川ダム文化財調査報告書』）。

2　福岡県による総合調査

これまで、『福岡県の民家　緊急調査報告書』（昭和47（1972）年）、『九州の石塔―福岡県の部―』（昭和49（1974）年）、『福岡県古文書等所在確認調査報告』（昭和52（1977）年）、『福岡県の民俗芸能』（昭和53（1978）年）、『福岡県遺跡等分布地図（甘木市・朝倉郡編）』（昭和53（1978）年）、『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告　１～56』（昭和57（1982）～平成11（1999）年）、『福岡県の美術工芸品Ⅰ―工芸・書跡・工芸技術―』（昭和56（1981）年）、『福岡県の美術工芸品Ⅱ―彫刻―』（昭和58（1983）年）、『福岡県の近世社寺建築』（昭和59（1984）年）、『福岡県の美術工芸品Ⅲ―絵画―』（平成元（1989）年）、『福岡県の建造物』（平成２（1990）年）、『福岡県の諸職』（平成２（1990）年）、『福岡県の近代化遺産―

日本近代化遺産総合調査報告―』（平成５(1993)年）、『福岡県の絵馬』（平成９（1997）年）など、様々な調査・報告がなされています。

近年では、「秋月街道」（平成13（2001）～15（2003）年度）で秋月街道とその沿線について歴史の道調査が実施されました。また、「福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査」（平成24（2012）～28（2016）年度）、「福岡県近代和風建築総合調査」（平成27（2015）年～29（2017）年度）、「福岡県戦争遺跡調査」（平成29（2017）年～令和元（2019）年度）、「福岡県近世窯業関係遺跡調査」（令和２（2020）年度～令和５（2023）年度）、「福岡県装飾古墳総合調査」（令和４（2022）年度～）など、様々な総合調査が実施され、成果がまとめられています。

本市域で実施された歴史文化遺産に関する主な調査報告は、次のとおりです。

表４－１　本市域で実施された歴史文化遺産に関する主な既往調査報告

文献名・調査名	発行機関	刊行年	備考
江川　民俗資料緊急調査報告書	甘木市教育委員会	昭和 44 年	民俗他総合調査
九州文化史研究所所蔵古文書目録九	九州大学	昭和 46 年	古文書
福岡県の民家　緊急調査報告書	福岡県教育委員会	昭和 47 年	建造物（古民家）
九州の石塔―福岡県の部―	福岡県教育委員会	昭和 49 年	有形文化財
やのたけ―寺内ダム民俗資料報告書―	甘木市教育委員会	昭和 49 年	民俗他包蔵調査
福岡県古文書等所在確認調査報告	福岡県教育委員会	昭和 52 年	古文書
福岡県の民俗芸能	福岡県教育委員会	昭和 53 年	民俗芸能
福岡県遺跡等分布地図（甘木市・朝倉郡編）	福岡県教育委員会	昭和 53 年	埋蔵文化財
秋月　秋月城下町伝統的建造物群保存対策調査計画報告書	甘木市教育委員会	昭和 55 年	建造物他総合調査
秋月藩政関係史料調査報告書（地方文書）	甘木市教育委員会	昭和 55 年	古文書
福岡県の美術工芸品Ⅰ―工芸・書跡・工芸技術―	福岡県教育委員会	昭和 56 年	美術工芸
九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告　１～56	福岡県教育委員会	昭和 57 年～平成 11 年	埋蔵文化財
秋月郷土館蔵書分類目録	九州大学	昭和 57 年	古文書
福岡県の美術工芸品Ⅱ―彫刻―	福岡県教育委員会	昭和 58 年	美術工芸
福岡県の近世社寺建築	福岡県教育委員会	昭和 59 年	建造物
福岡県の美術工芸品Ⅲ―絵画―	福岡県教育委員会	平成元年	美術工芸
福岡県の建造物	福岡県教育委員会	平成２年	建造物
福岡県の諸職	福岡県教育委員会	平成２年	無形文化財
福岡県の近代化遺産―日本近代化遺産総合調査報告―	福岡県教育委員会	平成５年	
甘木市遺跡等分布地図	甘木市教育委員会	平成５年	埋蔵文化財
九州文化史研究所所蔵古文書目録九	九州大学	平成６年	古文書
福岡県の絵馬	福岡県立美術館	平成９年	美術
朝倉町遺跡等分布調査報告書	朝倉町教育委員会	平成 10 年	埋蔵文化財
秋月街道	福岡県教育委員会	平成 16 年	民俗他総合調査
朝倉市内遺跡等分布調査報告書	朝倉市教育委員会	平成 22 年	埋蔵文化財
小石原川ダム文化財調査報告書	朝倉市教育委員会	平成 25 年	民俗他総合調査
福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査	福岡県教育委員会	平成 26 年	城館

文献名・調査名	発行機関	刊行年	備考
福岡県近代和風建築総合調査	福岡県教育委員会	平成 30 年	建造物
福岡県戦争遺跡調査	福岡県教育委員会	令和２年	戦争遺跡
福岡県近世窯業関係遺跡調査	福岡県教育委員会	令和２～５年	埋蔵文化財等
甘木市文化財調査報告書　第 1～69 集	甘木市教育委員会	昭和 49～平成 18 年	埋蔵文化財等
朝倉町文化財調査報告書　第 1～11 集	朝倉町教育委員会	昭和 43～平成 18 年	埋蔵文化財等
杷木町文化財調査報告書　第 1 ～7 集	杷木町教育委員会	昭和 45～平成 17 年	埋蔵文化財等
朝倉市文化財調査報告書　第 1～49 集	朝倉市教育委員会	平成 19～令和 5 年	埋蔵文化財等
筑前秋月藩関係文書の調査　「秋府諸士系譜」	朝倉市秋月博物館	令和５年	古文書

第２節　既存調査の成果と課題

1　既存調査の成果

これまで本市域で行われた歴史文化遺産の把握調査の状況は次のように整理されます。

表４－２　歴史文化遺産の把握状況

類型等	種別	把握調査				詳細調査
		市全域	甘木	朝倉	杷木	市全域
有形文化財	建造物	○	○	○	△	△
	絵画	×	×	×	×	×
	彫刻	△	×	△	△	△
	工芸品	×	×	×	×	×
	書跡・典籍	△	△	△	△	△
	古文書	○	○	○	△	△
	考古資料	○	○	○	○	△
	歴史資料	△	△	△	△	△
	石造物	○	○	○	△	△
無形文化財		○	○	○	○	△
民俗文化財	有形の民俗文化財	○	○	○	○	△
	無形の民俗文化財	○	○	○	○	△
記念物	遺跡	○	○	○	○	△
	名勝地	○	○	△	△	△
	動物・植物・地質鉱物	×	×	×	×	×
文化的景観		×	×	×	×	×
伝統的建造物群		○	○	○	○	○
埋蔵文化財		○	○	○	○	△
文化財の保存技術		△	△	△	△	△
その他の歴史文化遺産	物語・伝承	○	○	○	○	×
	人物史	○	○	○	○	×
	方言	○	○	○	○	×
	特産品	○	○	○	○	×

※１：「把握調査」は、歴史文化遺産の有無を確認するための調査、「詳細調査」は、既に確認できている歴史文化遺産の詳細を調査し、その価値を確認するための調査
※２：「○」は、おおむね調査できているもの。「△」は、部分的な調査にとどまっているもの。「×」は、調査の実施できていないもの。

図４－１　ダム関係民俗調査報告書

図４－２　文化財調査報告書の一部

２ 調査の課題

把握調査は絵画・彫刻・工芸品などの分野であまり進んでおらず、今後調査が必要です。その他の種別についても、詳細な調査に至っているものは少ないため、計画的に調査を進める必要があります。既存調査の成果からみる主な課題は、次のとおりです。

・有形文化財は、類型ごとに調査状況の偏りが大きく、特に絵画・彫刻・工芸品についてはほぼ未調査となっています。
・記念物は、動物・植物・地質鉱物については、市史や町史以降、ほぼ未調査となっています。
・文化的景観は把握調査ができていません。
・文化財の保存技術は、全体像が把握できていません。
・文化財の類型に関わらず、詳細調査が十分とはいえません。
・その他の歴史文化遺産は、概ね把握できていますが、詳細調査が必要です。